



萌木 9月号



調布市立第七中学校
校長 小坂 力

～自尊・立志・感動～

令和2年9月4日発行

予測不能の世の中で大切な3つの力について

今年は16日間という短い夏休みでしたが、保護者の方々・地域の方々のお陰で大きな事件・事故等もなく、無事2学期をスタートできました。ありがとうございます。

今学期が始まるにあたり、始業式では次のような話をしました。

おはようございます。

短い夏休みが終わり、今日からいよいよ2学期が始まります。

今年は例年にないことが続いています。その中で求められる力は対応する力、適応する力だと思います。現在、みなさんは大人も経験したことのない予測不能の中で生きています。生きていく上で不測の事態に対応したり適応したりする力はとても大切だと思います。

変えられないものをどんなに憂いてもどうにもなりません。例えば、明日晴れてほしくても雨が降ってほしくても、人間の力では変えられません。変えられないものは受け入れて、自分のできることを見極めて、そのことに対してベストを尽くすことが大切かと思っています。

そのため、予測不能の世の中で対応する力や適応する力を発揮するには

- (1) 変えられないものを受け入れること
 - (2) 変えられるものを変えていく努力をしてベストを尽くすこと
 - (3) 変えられないものと変えられるものを見分けること
- の3つが大切かと思っています。

みんなで協力して2学期を良い学期にしましょう。

今後もコロナ禍の中で、予測できることと予測できないことが続いていくと思われま。例えば、予測できることに対して準備をしていくことは、(2)の「変えられるものを変えていく努力をしてベストを尽くすこと」に当てはまることと考えます。しかし、世の中には予測できないことが続くものです。人間の力ではどうにもならないもの、例えば過去に起きたできごとや身近な人の心情などについては(1)の「変えられないものを受け入れること」となりますが、私は(3)の「変えられるものと変えられないものを見分けること」のための力がとても大切と考えています。予測不能の世の中で、対応する力・適応する力のために、学校生活の様々な学習をとおして身に付けていければ、と考えています。

2学期が始まり、1週間が過ぎました。子供たちは概ね落ち着いて生活し、学習に取り組んでいる様子が伺えます。また、コロナ禍でスタートした学級や学校生活にも慣れ、自分の居場所や立ち振る舞いを確認するなど様々な顔を見せ始めてもいます。

今学期も教職員一丸となって子供たちの力になっていきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。



道徳授業研修会を行いました。

8月26日(水)に道徳授業研修会を行いました。今年度は、コロナウイルスによる感染症対策のため、道徳授業公開講座という形にはできず、地域・保護者の皆様に道徳授業を公開することができませんでした。本校では、この機会に道徳授業の授業改善のため、全クラスでの道徳授業に加え、各学年抽出クラスによる研究授業を行いました。さらに狛江市教育委員会から坂本尚毅統括指導主事を講師に迎え、授業後、教員の研修会を行いました。

研究授業では、1学年は主題「新しいプライド」とし、働くことについて考えました。2学年は「誰のために働く～震災の中で～」を単元とし、働くことのすばらしさについて話し合いました。3学年は「いのちを考える…決断！骨髄バンク移植第一号」の題材を使い、「いのち」の尊厳について考えました。

講師の坂本先生からは、道徳における多様な指導方法や本日の研究授業についてお話をいただきました。

今回の研修会を、さらに今後の道徳授業に生かしていきます。



校内研究会を行いました。

9月2日(水)に校内研究会を行いました。今年の第七中学校の校内研究主題は「学びに向かう力を高め、教科の目標を達成するための工夫～PDCAサイクルを活用した授業改善～」としました。

今回は、調布市教育委員会指導主事の高橋康一先生を講師にお迎えし、5校時の授業参観もお願いしました。

研究会の中では、本日の授業参観の講評と今後の七中の校内研修に向けてのお話をいただきました。今後とも授業改善に向けて、教員が一致団結して取り組んでまいります。

《最近の授業の様子》



2年理科(鉄と硫黄の混合物の実験) 3年理科(塩酸の電気分解) 1年家庭科(エプロン制作)